

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01190

研究課題名(和文)ベルクソン『時間と自由』の総合的研究 国際協働を型とする西洋哲学研究の深化

研究課題名(英文)A Comprehensive Study of Bergson's Time and Free Will

研究代表者

平井 靖史(Hirai, Yasushi)

福岡大学・人文学部・教授

研究者番号：40352223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,380,000円

研究成果の概要(和文)：ベルクソンの第一主著『意識に直接与えられたものについての試論』(通称『時間と自由』)で提示され、のちの哲学的展開の源泉となった独創的な諸観念について、その思想史的背景、概念の内在的分析、その複合的な応用可能性の観点から、フランス哲学の枠内に留まらず分析哲学(時間経験・記憶・生命)や科学(人工知能・生物学・物理学)の諸分野との積極的な連携・協働を通じて国際的・学際的探求を行ない、多数のシンポジウムや出版物等の形で豊富な成果を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ベルクソン哲学への注目はますます高まっており、本研究が明らかにした「純粹持続」の多面的な含意、またそれに付随する人格、記憶、自由、数、空間についての独創的な諸観念の射程は、現在盛んになっている意識や記憶の学際的研究、また多元的なスケールで振る舞う心や生物についての統合的描像の構築、ひいては今なお課題として残されている物理事象と意識事象の理論的架橋の可能性について、多くの提言と示唆を与えるものになっており、次の水準での文理融合的な探究領域を切り開くことが期待される。

研究成果の概要(英文)：The innovative concepts presented in Henri Bergson's seminal work, "Time and Free Will," which later became a source of philosophical developments in the 20th century, have been explored not only within the framework of French philosophy but also through active collaboration and cooperation with various fields such as analytic philosophy (time experience, memory, life) and sciences (artificial intelligence, biology, physics). This interdisciplinary and international exploration has allowed for intrinsic analysis of the concepts, investigation of their historical background and the complex possibilities of application. As a result, numerous symposia, publications, and other forms of dissemination have yielded abundant achievements.

研究分野：哲学

キーワード：時間 自由

1. 研究開始当初の背景

本研究は、フランス人哲学者アンリ・ベルクソンの包括的な再評価をすべく 2007 年に立ち上げられた継続的な研究プロジェクト (Project Bergson in Japan、略称 PBJ) の第四期にあたる。過去の三期の科研・基盤研究 (B) において、広範な国際的・学際的な研究ネットワークを構築しつつ、『物質と記憶』、『創造的進化』、『道徳と宗教の二源泉』という主要著作を現代的な観点から掘り下げてきており、その成果について国際的評価も得てきた。本研究は、そうして培ってきた豊富な人的・方法的リソースを集結して、彼の第一主著である『意識に直接与えられたものについての試論』(以下、通称である『時間と自由』と表記) に取り組むべく設定された。同書で展開された時間概念は「**持続**」と名づけられ、この持続概念に基づいた自我論・自由論・心と記憶の哲学は、その後のフランス哲学 (サルトル、メルロ＝ポンティ、アロン、レヴィナス、ドゥルーズ) は言うまでもなく、心理学、社会学、物理学、文化人類学、文学など多くの分野に、現代に至るまで計り知れない影響力を及ぼしてきた。さらに近年は、脳科学・認知科学・人工知能学などの領域においても意識への科学的関心が高まってきており、時間の観点から科学と哲学を横断しつつアプローチする独創的なベルクソンのスタンスは、格別の関心を集めている。

2. 研究の目的

本研究では、以前の科研で形成されたベルクソン研究グループの発展的再組織化を図りつつ、ベルクソンの『時間と自由』に展開される哲学を総合的に研究する。「総合的」というのは、本プロジェクトでこれまでその基盤を構築してきた以下の三つの基軸からなる。すなわち、(a) 持続概念の歴史的形成とその後の世界的な受容を跡づける**思想史**のアプローチ、(b) **諸科学との対話**の観点から理論の哲学的射程を検証するアプローチ、そして(c) **分析哲学**の手法を取り入れた概念的解明を試みるアプローチである。

「持続」「心」「自我」「自由」に関するベルクソン学説について、上述の多元的・総合的な研究手法を適用することで、概念の相互連関、巨視的な文脈、そして具体的な理論的射程のそれぞれについて従来とは一線を画す明確な理解像を取り出すことが目指される。人間理解の根幹にかかわるこれらの軸的諸概念を刷新することは、ベルクソン哲学研究の枠を超えて、多くの現代的課題への貢献も期待できる。

3. 研究の方法

三つのアプローチに対応して、**三つの研究グループ**を研究分担者により構成する (図 1 参照)。これにより各グループの機動性が増し、この段階で必要な具体的トピックについて柔軟に研究活動を展開できる。さらに、年に一度の全体会合により、グループ相互のコミュニケーションも図り、三つのアプローチをより有機的に連動させることを図る。

各グループは、内部的な研究会合に加えて、国際的・学際的なワークショップ、シンポジウムなどの開催を担う。前回の採用期から運用しているこの手法のおかげで、今期の開始当初からすでに継続的な企画の運営がすみやかに遂行できる状態にある。

最終年度には総括的なシンポジウムを開催し、成果を書籍として出版する。

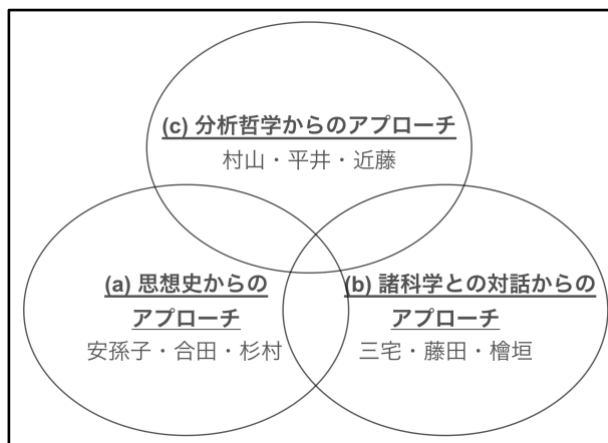


図 1 研究組織

4. 研究成果

ベルクソンの第一主著である『意識に直接与えられたものについての試論』(通称『時間と自由』)は彼の哲学の原点であり、そこで展開された時間・自由・意識・感情・数・空間などについての考察は、現代においてなお多角的な関心を惹きつけてやまない。この書の総合的研究である本課題では、コロナ禍で延期された四年間の間に、その思想史的背景、概念の内在的分析、その複合的な応用可能性について、フランス哲学の枠内に留まらず分析哲学や科学の諸分野との積極的な連携・協働を通じて全方位的な探求を行なった。

ベルクソン『時間と自由』において提示され、のちの哲学的展開の源泉となった独創的な諸観念について、その思想史的背景、概念の内在的分析、その複合的な応用可能性の観点から、フランス哲学の枠内に留まらず分析哲学 (時間経験・記憶・生命) や科学 (人工知能・生物学・物理学) の諸分野との積極的な連携・協働を通じて国際的・学際的探求を行ない、多数のシンポジ

ウムや出版物（英国 Routledge および Bloomsbury からの出版物二点を含む）の形で豊富な成果を得ることができた。期間中に開催した主なワークショップ・シンポジウムなどは以下の通り。

- [1] 「ベルクソンにおける持続とその数学的射程」2019年9月29日、東京大学
- [2] 「Physical Time, Biological Time: Bergsonism Today」2019年10月24-25日、トゥールーズ大学
- [3] 「Remembering: Analytic and Bergsonian Approaches」2019年10月28-29日、グルノーブル大学
- [4] 「汎心論を再起動する ラッセル・ベルクソン・ホワイトヘッド」2019年12月14日、中央大学
- [5] 「ベルクソン『時間観念の歴史 コレージュ・ド・フランス講義 1902-1903』（書肆心水）日本語版刊行記念合評会：アリストテレス・カント・19世紀フランス哲学をめぐって」2019年12月22日、北海道大学
- [6] 「ベルクソンと現代時間哲学：『時間観念の歴史』合評会」2020年11月21日、オンライン
- [7] 「ベルクソン『試論』の思想史的ポテンシャルを探る」2021年3月19日、オンライン
- [8] 「Time, Freedom, and Creativity」2021年7月29、30日、オンライン（リバプール大学）
- [9] 「Déjà-Vu and Memory : Bergson and Modern Philosophy of Memory」2021年9月12日、オンライン
- [10] 「Fukuoka Meeting of the Global Bergsonism Research Project」2021年11月12、18、19日、オンライン
- [11] 「Time and Biology in Bergson's *Creative Evolution*」2022年6月2、3、4日、福岡大学セミナーハウス
- [12] 「Novelty and Life: Bergson's Philosophy of Evolution」2022年6月18日、福岡大学セミナーハウス
- [13] 「Remembering: Analytic and Bergsonian Approaches 2」2022年10月2日、福岡大学
- [14] 「なぜ汎心論はパフォーマンスティブなのか」2022年10月9日、中央大学
- [15] 「PBJ 2022 シンポジウム In Search of *Time and Free Will*」2022年11月3、4、10、11日、オンライン
- [16] 「精神物理学の起源と展望：フェヒナー、ベルクソン、そして…」2023年1月7日、福岡大学
- [17] 「Towards a New Bergsonian Philosophy of Life」2023年1月24日、大阪大学
- [18] 「Bergson extrême-orientable : Actualités des études japonaises avec Hisashi Fujita et Yasushi Hirai」2023年3月13、16、20、22日、パリ CNRS

ベルクソン哲学への注目はますます高まっており、本研究が明らかにした「純粹持続」の多面的な含意、またそれに付随する人格、記憶、自由、数、空間についての独創的な諸観念の射程は、現在盛んになっている意識や記憶の学際的研究、また多元的なスケールで振る舞う心や生物についての統合的描像の構築、ひいては今なお課題として残されている物理事象と意識事象の理論的架橋の可能性について、多くの提言と示唆を与えるものになっており、次の水準での文理融合的な探究領域を切り開くことが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 27
2. 論文標題 講義の時間：ベルクソンのコレージュ・ド・フランス講義録を読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『フランス哲学・思想研究』	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hisashi Fujita	4. 巻 3
2. 論文標題 Sublime and Panoramic Vision: Bergson, Kant and Heidegger on Schematism	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Bergsoniana	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Yasushi Hirai	4. 巻 36
2. 論文標題 Bergson on Panpsychism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Parrhesia	6. 最初と最後の頁 137-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 平井靖史	4. 巻 49(15)
2. 論文標題 線形時間なしにいかにして過去を語るか 大森荘蔵とベルクソン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 150-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井靖史、原健一、ドニ・ペラン	4. 巻 53(3)
2. 論文標題 デジャヴュと記憶：ヘルクソンと現代記憶哲学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『人文論叢』（福岡大学人文学部）	6. 最初と最後の頁 1075-1115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 49(7)
2. 論文標題 リオータル『ポスト・モダンの条件』再読	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 32-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 49(15)
2. 論文標題 大森荘蔵と西田幾多郎 現在と身体をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 115-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 77(6)
2. 論文標題 生物学とフェミニズム 二一世紀思想からフレンチ・フェミニズムも流れをとらえなおす	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 51(3)
2. 論文標題 媒介子・フラット・ポストモダン ラトゥールとフランス哲学	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 7
2. 論文標題 スピヴァクにおける読解の「二重性」という戦略について デリダのマラルメ、フロイトの古層	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 共生学ジャーナル 大阪大学人間科学部	6. 最初と最後の頁 27-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉村靖彦	4. 巻 15
2. 論文標題 ポスト西谷の宗教哲学へ 西谷宗教哲学の受け取り直しのために	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『文明と哲学』日独文化研究所	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 合田正人	4. 巻 90
2. 論文標題 シャルル・ルヌヴィエとヘルマン・コーエンー新批判主義の交錯と分岐	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 195-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 -
2. 論文標題 カヴァイエスのスピノザ主義の再解釈の試み : l'absolu d'intelligibilitéの肯定	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文学科論集』鹿児島大学法文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 -
2. 論文標題 一八九二年のルネ・ヴォルムス『スピノザの道徳 その原理とそれが現代におよぼした影響の検討』 に至る、実証主義におけるスピノザ受容の歴史的概観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文学科論集』鹿児島大学法文学部紀要	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 入不二基義、上野修、近藤和敬	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 哲学とは何か、そして現実性とは	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 197-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 51(3)
2. 論文標題 ラトゥールの『地球に降り立つ』を読む : 「テレストリアル」の科学と特異なるものの多様体	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 103-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井靖史・青山拓央・岡嶋隆佑・藤田尚志・森田邦久	4. 巻 53(2)
2. 論文標題 「ベルクソンと現代時間哲学(上)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文論叢』(福岡大学人文学部)	6. 最初と最後の頁 495-528
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平井靖史	4. 巻 26
2. 論文標題 2020年度秋季研究大会シンポジウム報告 リズムの哲学:ソヴァネ、ベルクソン、マルディネ イントロダクション	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『フランス哲学・思想研究』	6. 最初と最後の頁 47-48
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 26
2. 論文標題 リズムの哲学がベルクソンに負うもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『フランス哲学・思想研究』	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平井靖史・青山拓央・岡嶋隆佑・藤田尚志・森田邦久	4. 巻 53(3)
2. 論文標題 「ベルクソンと現代時間哲学(下)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人文論叢』(福岡大学人文学部)	6. 最初と最後の頁 941-969
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口忠大・平井靖史・津田陽司・三宅陽一郎	4. 巻 36(4)
2. 論文標題 「ベルクソンの「時間スケール」を軸に新たな知能と意識の構成可能性を探る[前編]」レクチャーシリーズ「AI哲学マップ」〔第3回〕	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人工知能』（人工知能学会）	6. 最初と最後の頁 500-511
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷口忠大・平井靖史・津田陽司・三宅陽一郎	4. 巻 36(5)
2. 論文標題 ベルクソンの「時間スケール」を軸に新たな知能と意識の構成可能性を探る[後編]」レクチャーシリーズ「AI哲学マップ」〔第4回〕	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人工知能』（人工知能学会）	6. 最初と最後の頁 627-641
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平井靖史	4. 巻 56
2. 論文標題 ベルクソンの意識概念	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『哲学論文集』（九州大学哲学会）	6. 最初と最後の頁 77-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平井靖史	4. 巻 48(8)
2. 論文標題 ベルクソンの汎質論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 138-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1150
2. 論文標題 西田幾多郎のパロック	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 57-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1154
2. 論文標題 ジェイムズの「モザイク」哲学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 141-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1162
2. 論文標題 パスという多面体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 135-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅岳史	4. 巻 21
2. 論文標題 実証的形而上学と拡張ベルクソン主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アルケー』（関西哲学会）	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuhiko Sugimura	4. 巻 21
2. 論文標題 Temoigner apres la "fin de la philosophie" : L'hermeneutique radicale du temoignage dans la philosophie francaise post-heideggerienne	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 STUDIA PHAENOMENOLOGICA, Romanian Society for Phenomenology	6. 最初と最後の頁 87-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 近藤和敬・酒井真道	4. 巻 71
2. 論文標題 「学協会「実在論の可能性 インド哲学との対話」シンポジウム報告」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『哲学』(日本哲学会)	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 48(9)
2. 論文標題 アラン・バディウの哲学と数学の関係についての批判的考察 : 「概念の哲学」のポスト・カヴァイエスの展開の諸相という観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想 特集 = 圏論の世界 : 現代数学の最前線』	6. 最初と最後の頁 225-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1141
2. 論文標題 「フーコーの人口論再考」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『思想』	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1
2. 論文標題 宮沢賢治と食 「ピヂテリアン大祭」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「文化の基層としての食」	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 檜垣立哉	4. 巻 1150
2. 論文標題 「西田幾多郎のパロック」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『思想』	6. 最初と最後の頁 57-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 47(10)
2. 論文標題 ジルベール・シモンドンの個体化の哲学にみるアインシュタインの影響 : 特異性-場の二重分節としての個体化とアラグマティックな関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 207-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 47(15)
2. 論文標題 「かぞえかたのわからない巨大数は存在しないのか」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 161-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和敬	4. 巻 第87号
2. 論文標題 「ドゥルーズが『差異と反復』で言及していた数学はどのようなものであったのか、そしてそこにドゥルーズは何をみていたのか」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人文学科論集』	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 7
2. 論文標題 「家族の脱構築 ヘーゲル、デリダ、パトラーによる『アンチゴネー』読解から出発して」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジェンダー対話シリーズ第7回(中)、けいそうビブリオフィル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 第73・74合併号
2. 論文標題 「知的誘惑装置としての大学 講演会へのイントロダクション」(第28回国際文化学会報告:河野真太郎「戦う姫、働く少女の生きる道 ワークフェア・愛情搾取・コミュカ」へのイントロダクションとして)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『九州産業大学国際文化学部紀要』	6. 最初と最後の頁 71-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田尚志	4. 巻 第73・74合併号
2. 論文標題 「知的Gymnasticsの場としてのゼミ 第二部「河野先生との語らい」の紹介」(第28回国際文化学会報告:河野真太郎「戦う姫、働く少女の生きる道 ワークフェア・愛情搾取・コミュカ」の結びとして)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『九州産業大学国際文化学部紀要』	6. 最初と最後の頁 96-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計74件（うち招待講演 30件 / うち国際学会 31件）

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 表現的自我：分析的アプローチとベルクソンのアプローチの接合
3. 学会等名 PBJ-DI分析系分科会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 フーリエ的思考と結婚の脱構築：ベルクソン、ドゥルーズを参照しつつ
3. 学会等名 セッション「フーリエ研究の現在」@社会思想史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 感覚を計測するとはどういうことか？ カント、フェヒナー、ベルクソン
3. 学会等名 PBJ (Project Bergson in Japan) 主催ワークショップ「精神物理学の起源と展望：フェヒナー、ベルクソン、そして...」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hisashi Fujita
2. 発表標題 Bergson et Heidegger I: deux voies de l'organologie (autour de l'être vivant)
3. 学会等名 Seminaire de recherche international "Bergson extreme-orientable : Actualite des etudes japonaises" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hisashi Fujita
2. 発表標題 Bergson et Heidegger II: deux voies de l'ethique originelle (autour de l'appel)
3. 学会等名 Seminaire de recherche international "Bergson extreme-orientable : Actualite des etudes japonaises" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasushi Hirai
2. 発表標題 An Overview of the Multi Time Scale Framework of Bergson's Philosophy: from Qualia to Pure Memory
3. 学会等名 Seminaire de recherche international "Bergson extreme-orientable : Actualite des etudes japonaises" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasushi Hirai
2. 発表標題 Perspectives on the Hybridisation of Time: Canalisation, Typified Images and Universal Time
3. 学会等名 Seminaire de recherche international "Bergson extreme-orientable : Actualite des etudes japonaises" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tatsuya Higaki
2. 発表標題 On the Concept of "Involution" in Deleuze and Guattari: From the Standpoint of Viveiros de Castro's Multiculturalism
3. 学会等名 Deleuze Guattari Studies 2020 in Prague (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 檜垣立哉
2. 発表標題 「ドゥルーズと法の問題」西川耕平 コメントーター
3. 学会等名 三田哲学会公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 檜垣立哉
2. 発表標題 下村寅太郎の科学哲学1 無限論を中心として
3. 学会等名 グローバル日本学「京都学派およびポスト京都学派における科学哲学及び技術哲学」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 檜垣立哉
2. 発表標題 下村寅太郎の科学哲学 後半分 および 続編構造
3. 学会等名 グローバル日本学「京都学派およびポスト京都学派における科学哲学及び技術哲学」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 檜垣立哉、藤田尚志
2. 発表標題 持続のリズム -- 『時間と自由』をめぐって--
3. 学会等名 ベルクソン思想の現在 21世紀に炸裂する20世紀の生の哲学（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 檜垣立哉、平井靖史
2. 発表標題 純粹記憶 ― 『物質と記憶』という怪物―
3. 学会等名 ベルクソン思想の現在 21世紀に炸裂する20世紀の生の哲学（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tatsuya Higaki
2. 発表標題 Bergson and Feminism: From the Perspective of Elizabeth Grosz
3. 学会等名 Project Bergson in Japan Symposium: In Search of Time and Free Will（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 檜垣立哉、平井靖史、藤田尚志、平賀裕貴、米田翼
2. 発表標題 ベルクソン思想の現在地
3. 学会等名 本のあるとことajiroイベント（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 檜垣立哉、佐古仁志、佐原浩一郎、得能想平、米田翼、平田公威、小川歩人、織田和明、古村信明、山崎吾郎、近藤和敬、久保明教、山森裕毅、永吉希久子、小林卓也、小倉拓也、藤高和輝、森野雄介、橘真一、Jimmy Aames
2. 発表標題 檜垣立哉全仕事(2023年3月時点)
3. 学会等名 檜垣立哉教授大阪大学最終年度記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasuhiko Sugimura
2. 発表標題 Descente en deca de l'etre : Levinas et Nishida entrecroises
3. 学会等名 Colloque Cerisy, Levinas et Merleau-Ponty : le corps et le monde, Centre culturel de Cerisy-la-Salle (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuhiko Sugimura
2. 発表標題 Transplanter la "duree pure" dans l'Ecole de Kyoto : le cas de NISHITANI Keiji
3. 学会等名 Project Bergson in Japan Symposium : In Search of Time and Free Will
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 合田正人
2. 発表標題 翻訳としての哲学——「である」の冒険
3. 学会等名 ISEAP (東アジア国際哲学会) 「東アジア哲学レクチャーシリーズ」 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masato Goda
2. 発表標題 Seas and Islands in Tetsuro Watsuji : Fudo and Sakoku
3. 学会等名 The Journal of East Asian Philosophy 創刊記念国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tatsuya Murayama
2. 発表標題 Bergsonian Freedom as Expression
3. 学会等名 Project Bergson in Japan Symposium : In Search of Time and Free Will (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takeshi Miyake
2. 発表標題 The controversy on the concept of intensity and its contexts H. Bergson and J. Tannery
3. 学会等名 Project Bergson in Japan Symposium : In Search of Time and Free Will (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三宅岳史
2. 発表標題 迷信の源泉と行方 静的宗教と人類学
3. 学会等名 京都哲学史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三宅岳史
2. 発表標題 ジーナ・ロンブローゾの産業技術論 『道徳と宗教の二源泉』への影響
3. 学会等名 ベルクソン哲学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masato Goda
2. 発表標題 Art poetique of Bergson. Clinamen and Rhythm in De Rerum Natura of Lucretius
3. 学会等名 Project Bergson in Japan Symposium : In Search of Time and Free Will (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasushi Hirai
2. 発表標題 Multiplicity, Tense and Aspect
3. 学会等名 Project Bergson in Japan Symposium : In Search of Time and Free Will (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazunori Kondo
2. 発表標題 Mathematics and Space in Early Bergson: Problems and Solutions
3. 学会等名 Project Bergson in Japan Symposium : In Search of Time and Free Will (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shin Abiko
2. 発表標題 Une sociologie inachevee chez Bergson
3. 学会等名 Project Bergson in Japan Symposium : In Search of Time and Free Will (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tatsuya Murayama
2. 発表標題 Bergson on the Indefinability of Freedom
3. 学会等名 Time, Freedom, and Creativity: Bergsonian Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 ベルクソンとリズムの問題
3. 学会等名 日仏哲学会春季・秋季合同大会シンポジウム (秋季)「リズムの哲学：ソヴァネ、ベルクソン、マルティネ」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 声の肌理をどう翻訳するか ベルクソンのコレージュ・ド・フランス講義『時間観念の歴史』翻訳について
3. 学会等名 第46回ベルクソン哲学研究会：『時間観念の歴史』&『物質と記憶』刊行記念ワークショップ「ベルクソンの翻訳をめぐって」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 ベルクソンCdF講義を導入する
3. 学会等名 PBJ (Project Bergson in Japan) 主催「ベルクソンと現代時間哲学『コレージュ・ド・フランス講義1902 - 1903年度 時間観念の歴史』合評会」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 図式論と生 ベルクソンとハイデガーにおけるカント解釈をめぐって
3. 学会等名 実存思想協会 2021年3月春の研究会講演会「ベルクソンとハイデガー 「時間観念の歴史」をめぐって」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 ベルクソン人格概念と英米哲学接合の試み
3. 学会等名 PBJ-DI分析系分科会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hisashi Fujita
2. 発表標題 On Personality: Analytic and Bergsonian Approaches
3. 学会等名 International Workshop "Time, Freedom, Creativity: Bergsonian Perspectives" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasushi Hirai
2. 発表標題 Bergson on Causality: A Generative Account on the Sense of Agency
3. 学会等名 International Workshop "Time, Freedom, Creativity: Bergsonian Perspectives" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hisashi Fujita
2. 発表標題 Bergson and Heidegger on Schematism
3. 学会等名 Fukuoka Meeting of the Global Bergsonism Research Project (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 崇高と走馬灯 ベルクソン、カント、ハイデガーをめぐる超越論的図式機能のゆくえ
3. 学会等名 第49回ベルクソン哲学研究会：特定質問者・峰尾公也氏とともに
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hisashi Fujita
2. 発表標題 On Expressive Personality. Analytic and Bergsonian Approaches
3. 学会等名 Analytic and Bergsonian Perspectives 2 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasushi Hirai
2. 発表標題 A simulationist interpretation of Bergson's pure memory
3. 学会等名 Analytic and Bergsonian Perspectives 2 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 檜垣立哉
2. 発表標題 ドゥルーズの哲学
3. 学会等名 東京大学教養学部学藝饗宴ゼミ（鈴木寛セミナー）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tatsuya Higaki
2. 発表標題 Kuki and Nishida on the Present: The Eternal Now and Contingency
3. 学会等名 Kyoto in Davos, Hildesheim University（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 檜垣立哉
2. 発表標題 生物学主義と哲学　生き物を巡るハイデガーとデリダ(およびアガンベン)
3. 学会等名 ハイデガー・フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 檜垣立哉
2. 発表標題 ベルクソンとアメリカ哲学　ジェイムズとパースとの関連において
3. 学会等名 『試論』の思想史的ポテンシャルを探る
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tatsuya Higaki
2. 発表標題 Deleuze and Peirce 's Realism
3. 学会等名 Deleuze Guattari Studies in Asia, Seoul
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安孫子信
2. 発表標題 実証性をめぐって
3. 学会等名 『試論』の思想史的ポテンシャルを探る
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三宅岳史
2. 発表標題 実証的形而上学と拡張ベルクソン主義
3. 学会等名 共同討議「時間とプロセス：分析哲学とベルクソン哲学との対話」（関西哲学会）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三宅岳史
2. 発表標題 ジュール・タンヌリ『科学と哲学』を分析する　ベルクソン『試論』の背景を探る
3. 学会等名 Project Bergson in Japan科学研究費B「ベルクソン『時間と自由』の総合的研究」エピステモロジー研究班分科会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuhiko Sugimura
2. 発表標題 "Je ne suis rien" Le degre zero de l'ipseite ricoeurienne
3. 学会等名 Colloque internationale : Paul Ricoeur, patrimoine mondiale (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉村靖彦
2. 発表標題 西谷啓治のベルクソン論 卒論「シェリングの絶対的觀念論とベルグソンの純粹持續」(1924)から
3. 学会等名 『試論』の思想史的ポテンシャルを探る (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuhiko Sugimura
2. 発表標題 Transplanter le bergsonisme dans le lieu du neant : Bergson et l'Ecole de Kyoto
3. 学会等名 Fukuoka Meeting of the Global Bergsonism Research Project (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 The Role of Peirce in Deleuze
3. 学会等名 Deleuze Guattari Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 On Shuzo Kuki 's Theory of Sound Patterns: The Multi-layered Nature of the Repeated Present
3. 学会等名 European Network of Japanese Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya HIGAKI
2. 発表標題 Animals and Humans,
3. 学会等名 Deleuze India Collective (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasuhiko Sugimura
2. 発表標題 Le poids de l 'etre-social aux limites de la phenomonologie hyletique - Levinas et Tanabe dans les annees 1930 -
3. 学会等名 国際シンポジウム「個と普遍 エマニュエル・レヴィナスと極東の思考」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉村靖彦
2. 発表標題 ここにいる ことの絶望的な困難
3. 学会等名 現代における宗教の役割研究会 (コルモス) 公開講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三宅岳史
2. 発表標題 ベルクソンと社会有機体説
3. 学会等名 京都哲学史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三宅岳史
2. 発表標題 持続と計測 ジュール・タンヌリによる論争の背景
3. 学会等名 Project Bergson in Japan エピステモロジー分科会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 「ベルクソン伝説の講義とその楽しみ方（ハイデガーとの比較にも触れつつ）」
3. 学会等名 アンリ・ベルクソン『時間観念の歴史』刊行記念トークイベント第一弾「ベルクソン伝説の講義を語る」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 「ベルクソン的人格概念の再検討 リキエ『ベルクソンの考古学』から出発して」
3. 学会等名 PBJ-DI分析系分科会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 「「或る生」の哲学とは何か? 秋保亘『スピノザ 力の存在論と生の哲学』(法政大学出版局、2019年)を読む」
3. 学会等名 スピノザ協会 第69回研究会 秋保亘『スピノザ 力の存在論と生の哲学』合評会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 「The range of the voice: Towards a Bergsonian theory of Personality」
3. 学会等名 "Remembering: Analytic and Bergsonian Perspectives" (Franco-Japanese workshop) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 「Coup de sonde, coup de genie : PBJ (Projet Bergson au Japon), traduction japonaise, quelques reflections sur le cours」
3. 学会等名 "Bergson : L'evenement des cours au College de France" Journee d'etude organisee par la Societe des amis de Bergson (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 「ベルクソン伝説の講義の活用法(ハイデガーとの比較を中心に)」
3. 学会等名 アンリ・ベルクソン『コレージュ・ド・フランス講義 1902-1903年度 時間觀念の歴史』刊行記念トークイベント第二弾「ベルクソン伝説の講義を語る プロティノス、ベネデッティ、ハイデガー」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田尚志
2. 発表標題 「ベルクソンの「可能性の条件」とは何か？ 岡嶋隆佑「自由行為の哲学 初期ベルクソン哲学における時間と空間」を読む
3. 学会等名 三田哲学会シンポジウム「ベルクソンと自由 時間・空間から自由へ」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 Bergson 's hybrid model of image-memory
3. 学会等名 Centre for Philosophy of Memory Internal Seminar
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 マルチ・スケール時間論に基づく意識の理論: 拡張ベルクソン主義の観点から
3. 学会等名 日本時間学会設立10周年記念第11回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 脳はイメージである
3. 学会等名 「脳はイメージである ベルクソン『物質と記憶』を読む」トークイベント
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 再認の段階的創発を時間構造の変形から考える
3. 学会等名 生理研研究会2019 認知神経科学の先端「脳の理論から身体・世界へ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 江川隆男『スピノザ『エチカ』講義』へのコメント
3. 学会等名 江川隆男『スピノザ『エチカ』講義』合評会、スピノザ協会第69回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 ベルクソンの意識概念
3. 学会等名 九州大学哲学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 System and Distinguishability: Multi-layered Temporal Structure of duree
3. 学会等名 International Workshop: Physical Time, Biological Time: Bergsonism Today（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 What is the theoretical role of 'pure memory'?
3. 学会等名 International Workshop Remembering: Analytic and Bergsonian Perspectives, (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井靖史
2. 発表標題 Variable granularity of memory and intellectual flexibility: Bergson's inversed cone model of the mind
3. 学会等名 Araya Consciousness Club Seminar
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計39件

1. 著者名 David Kreps, Jessica Muirhead, Mark Coeckelbergh, Malcolm Garrett, Yasushi Hirai, Chris Bush, Elizabeth Buie, Bernd Stahl, Tina Roeck	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 148
3. 書名 Understanding Digital Events: Bergson, Whitehead, and the Experience of the Digital	

1. 著者名 Yasushi Hirai, Paul-Antoine Miquel, Takeshi Miyake, Joel Dolbeault, Masato Goda, Hisashi Fujita, Stephen E. Robbins, Tetsuya Kono, Sebastien Miravete, Tatsuya Higaki, Barry Dainton, Takahiro Isashiki, Elie During, Pegio-Yukio Gunji, Ryusuke Okajima	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 288
3. 書名 Bergson's Scientific Metaphysics: Matter and Memory Today	

1. 著者名 藤田尚志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 751
3. 書名 『ベルクソン 反時代的哲学』	

1. 著者名 平井靖史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 367
3. 書名 『世界は時間でできている ベルクソン時間哲学入門』	

1. 著者名 檜垣立哉・平井靖史・平賀裕貴・藤田尚志・米田翼	4. 発行年 2022年
2. 出版社 書肆侃侃房	5. 総ページ数 272
3. 書名 『ベルクソン思想の現在』	

1. 著者名 檜垣 立哉、杉山 直樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 320
3. 書名 ベルクソンの哲学 生成する实在の肯定	

1. 著者名 アンリ・ベルクソン、藤田尚志・平井靖史・天野恵美里・岡嶋隆佑・木山裕登記	4. 発行年 2023年
2. 出版社 書肆心水	5. 総ページ数 -
3. 書名 『1903 1904年度コレージュ・ド・フランス講義 記憶理論の歴史』	

1. 著者名 平芳幸浩編、藤田尚志	4. 発行年 2023年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 264
3. 書名 『現代の皮膚感覚をさぐる 言語、表象、身体』	

1. 著者名 檜垣 立哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 346
3. 書名 バロックの哲学	

1. 著者名 檜垣立哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 416
3. 書名 日本近代思想論	

1. 著者名 檜垣 立哉、三浦 麻子、山森 裕毅、斉藤 弥生、山口 宰、野坂 祐子、高谷 幸、福岡 まどか、辻 大介、森田 敦郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 220
3. 書名 住む・棲む	

1. 著者名 檜垣 立哉、山崎 吾郎、近藤和敬	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 構造と自然	

1. 著者名 檜垣 立哉	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 448
3. 書名 生命と身体	

1. 著者名 Yasushiko Sugimura	4. 発行年 2023年
2. 出版社 PUF, coll. Chaire Etienne Gilson	5. 総ページ数 300
3. 書名 Temoignage et eveil de soi : Pour une autre philosophie de la religion	

1. 著者名 廖欽彬・伊東貴之・河合一樹・山村奨（編）、杉村靖彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 853
3. 書名 『東アジアにおける哲学の生成と発展 間文化の視点から』	

1. 著者名 杉村靖彦・渡名喜庸哲・長坂真澄(編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 417
3. 書名 『個と普遍 レヴィナス哲学の新たな広がり』	

1. 著者名 池田喬、合田正人、志野好伸、美濃部仁	4. 発行年 2021年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 416
3. 書名 何処から何処へ	

1. 著者名 廖欽彬、伊東 貴之、河合 一樹、山村 奨、合田正人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 886
3. 書名 東アジアにおける哲学の生成と発展	

1. 著者名 三宅岳史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 美巧社	5. 総ページ数 -
3. 書名 哲学的エッセイ集 石川徹先生退職記念誌	

1. 著者名 アルペール・ロトマン（近藤和敬、米虫正巳、中村大介、原田雅樹訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 数理哲学論集	5. 総ページ数 192
3. 書名 数理哲学論集 - アイデア・実在・弁証法	

1. 著者名 エリザベス・グロス著 檜垣立哉監訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 192
3. 書名 『カオス・領土・テリトリー』	

1. 著者名 檜垣立哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 『世界哲学史 8』	

1. 著者名 Tatsuya HIGAKI, Jimmy Aames	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Mimesis International	5. 総ページ数 186
3. 書名 Nishida Kitaro's Philosophy of Life	

1. 著者名 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史・安孫子信・他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 408
3. 書名 『現代フランス哲学入門』	

1. 著者名 三宅岳史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 『世界哲学史 7』	

1. 著者名 Johann Michel et Carla Canullo (ed.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Inschibboleth Edizioni	5. 総ページ数 304
3. 書名 Renouveler l'hermeneutique. Penser avec Paul Ricoeur	

1. 著者名 近藤和敬	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社選書メチエ	5. 総ページ数 605
3. 書名 『ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する : 「内在」の哲学試論』	

1. 著者名 ブリュノ・ラトゥール(工藤晋訳)、近藤和敬	4. 発行年 2020年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 136
3. 書名 『諸世界の戦争 平和はいかが?』	

1. 著者名 上野修・杉山直樹・村松正隆編、近藤和敬	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 354
3. 書名 『スピノザと19世紀フランス』	

1. 著者名 西井涼子, 箭内匡(編著)、近藤和敬	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学出版会	5. 総ページ数 447
3. 書名 『アフェクトゥス 生の外側に触れる』	

1. 著者名 檜垣立哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 『ドゥルーズ 解けない問いを生きる【増補新版】』	

1. 著者名 Anne Querrien, Anne Sauvagnargues, Arnaud Villani, Tatsuya Higaki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Hermann	5. 総ページ数 10
3. 書名 Agencer les multiplicite avec Deleuze、HIGAKI De la metallurgie au cyborg	

1. 著者名 伊藤詞子, 内堀基光, 奥野克巳, 春日直樹, 金子守恵, 河合香吏, 久保明教, 黒田末寿, 湖中真哉, 小松かおり, 田中雅一, 床呂郁哉, 中村美知夫, 西井涼子, 丹羽朋子, 檜垣立哉, 伏木香織	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学出版会	5. 総ページ数 12
3. 書名 『ものの人類学2』檜垣「<もの自体>を巡る哲学と人類学」	

1. 著者名 志水 宏吉、河森 正人、栗本 英世、檜垣 立哉、モハーチ・ゲルゲイ、木村友美、藤目ゆき、山本ベバリーアン、澤村信英、稲場圭信、渥美公秀、宮前良平、山崎吾郎、山本晃輔、藤高和輝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 23
3. 書名 『共生学宣言』 檜垣「「共生」の位相を巡る思想史—小さな物語の横溢？大きな物語の欺瞞？」	

1. 著者名 Andrea Altobrando, Taguchi Shigeru, Itabashi Yujin, Tangi Hirokazu, Cheung Ching-yuen, John C. Maraldo, Ishihara Yuko, Taguchi Shigeru, Sugimura Yasuhiko, Yaegashi Toru, Uemura Genki, Ikeda Takashi, Krueger Joel, Nitta Yoshihiro, Murai Norio, Nagai Shin	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 271
3. 書名 Tetsugaku Companion to Phenomenology and Japanese Philosophy (Tetsugaku Companions to Japanese Philosophy vol.3)	

1. 著者名 レジーヌ・アズリア、ダニエル・エルヴェー=レジェ、増田一夫、伊達聖伸、鶴岡賀雄、杉村靖彦、長井伸仁、石川学、稲永祐介、上山益己、梅野宏樹、越後圭一、岡本亮輔、熊谷友里、小島慎司、坂野正則、佐藤朋子、杉本隆司、鈴木順子、高山裕二、田中浩喜、寺戸淳子、渡名喜庸哲、長坂真澄、藤岡俊博、前田更子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 800
3. 書名 『宗教事象事典』	

1. 著者名 森田邦久、谷村省吾、佐金武、筒井泉、小山虎、細谷暁夫、青山拓央、平井靖史、三宅岳史、佐々木一憲	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 現在 という謎	

1. 著者名 近藤和敬	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 494
3. 書名 『内在の哲学へ ドゥルーズ、カヴァイエス、スピノザ』	

1. 著者名 アンリ・ベルクソン (藤田尚志・平井靖史・岡嶋隆佑・木山裕登共訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 書肆心水	5. 総ページ数 446
3. 書名 『コレージュ・ド・フランス講義 1902-1903年度 時間観念の歴史』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Project Bergson in Japan https://matterandmemory.jimdo.free.com/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三宅 岳史 (Miyake Takeshi) (10599244)	香川大学・教育学部・准教授 (16201)	
研究分担者	杉村 靖彦 (Sugimura Yasuhiko) (20303795)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	村山 達也 (Murayama Tatsuya) (50596161)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	合田 正人 (Goda Masato) (60170445)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	安孫子 信 (Abiko Shin) (70212537)	法政大学・文学部・教授 (32675)	
研究分担者	檜垣 立哉 (Higaki Tatsuya) (70242071)	大阪大学・人間科学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	藤田 尚志 (Fujita Hisashi) (80552207)	九州産業大学・国際文化学部・教授 (37102)	
研究分担者	近藤 和敬 (Kondo Kazunori) (90608572)	鹿児島大学・法文教育学域法文学系・准教授 (17701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計13件

国際研究集会 PBJ Symposium 2022: In Search of Time and Free Will	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Novelty and Life: Bergson's Philosophy of Evolution	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Toward a New Bergsonian Philosophy of Life	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Deja-vu and Memory	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Time and Biology in Bergson's Creative Evolution	開催年 2022年～2022年

国際研究集会 A Bergsonian Approach to Evolutionary Theory	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Remembering: Analytic and Bergsonian Perspectives 2	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Time, Freedom, and Creativity: Bergsonian Perspectives	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Fukuoka Meeting of the Global Bergsonism Research Project	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 International Workshop Physical Time, Biological Time: Bergsonism Today	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Workshop Remembering: Analytic and Bergsonian Perspectives	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Workshop Time, Freedom, and Creativity: Bergsonian Perspectives	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Bergson extreme-orientable : Actualite des etudes japonaises avec Hisashi Fujita et Yasushi Hirai	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
	フランス	CNRS	Societe des Amis de Bergson	Centre for Philosophy of Memory
英国	Liverpool University			